



多くの人との かかわりの中で

人は一人で生きていけるのか

「だれのおかげでここまで大きくなったか」と思っているの。」という親。「〇〇してはいけません。」「〇〇しなさい。」という先生。「頼むから俺の頼みを聞いてくれ。」という友達。そんな人間関係の中で、多くの子どもたちは、こんなことを考えはしないでしょうか。

「確かに大きくなったのは、親が育ててくれたからだだが、こちらから産んでくれと頼んだ覚えはない。」「なぜ、先生というだけで、言うことを聞かなければならないのか。」「友達だからといって、いやな頼みまで受け入れる必要はないだろう。」「といった反論とともに誰にも干渉されず、自分一人で生きたいと。しかしながら、はたして、わたしたち人間は一人で生きていくことができるのでしょうか。」

道徳の時間の学習で

ある日曜日の朝、男の子がお母さんに一枚の紙切れを渡します。その紙には次のように書いてありました。

ぼくからの請求書	
お使い代	100円
おそうじ代	200円
お留守番代	200円
合計	500円

お母さんは何も言わずにっこり笑いました。

お昼ご飯の時、お母さんは男の子に500円を渡します。男の子は喜びましたが、お金と一緒ににお母さんからの手紙も受け取ります。その手紙には次のように書いてありました。

お母さんからの請求書	
親切にしてあげた代	0円
病気をした時の看病代	0円
洋服や靴やおもちや代	0円
食事代と部屋代	0円
合計	0円

これは、小学校の道徳の時間で使用する資料のあらすじです。この資料で学習した児童の作文の一部を紹介いたします。

お母さんからの請求書にはすべて0円と書いてありました。お母さんは、自分はお金をもらわれないから、500円返して、と言いたいのかなと思いました。みんなもよく分らないようでした。参観日に来ていたお母さんたちに聞いてみると「ただ、わが子が好きだから。」と言っていました。……ぼくは、みんなに助けてもらいながら生きていくことが分かりました。そして、そのことがうれしかったです。ぼくは、これからも、みんなに支えてもらいながら、勉強や習い事をがんばっていきたいと思います。

成長を喜び、支える気持ちで

子どもが、他人に頼らずに生きていけることを示したい、と思うことは、大人への成長過程として当たり前の感情です。たとえつまずこうとも、一人で未来を拓こうとする意志や、一人で生きていこうとする心意気は素晴らしいことです。しかし、現実的に、人は人とかかわりの中でしか生きていくことはできません。

自分は誰にも頼っていないと突っ張ってみても、着ている服、食べている物の多くは他人の手によって作られています。

「人は、人によって人になる。」と言われるように、私たちは人とかかわりの中でこそ人としてよりよく成長できるのです。

大人が、「誰のおかげでここまで大きくなったか」と思っているの。」と子どもをしかることは簡単なことです。しかし、かく言う私たちも、誰かのおかげでここまで生きてきたのです。一人の大人として、わが子の、そして多くの子どもたちの成長を願ひ、共に喜び、支える愛情を持ちながらかかわっていきたいものです。その愛情は、必ず子どもにも伝わり、やがて、人とかかわることの大切さに気づき、さらに温かい思いやりの心へと育つのではないのでしょうか。

配偶者・パートナーからの暴力（DV）は犯罪です。一人で悩まず相談を!!

市では、近年急増しているDVの早期発見および早期解決、また被害者に対し、適切に対応するため、関係機関と連携し「竹原市DV防止対策関係機関連絡会議」を立ち上げました。DV被害で悩む人や家族、または周りの人が被害にあっていると感じた人は早急に相談してください。

問い合わせ 人権推進室 ☎22-7736